



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「輝け 2022!」
あかつき共同作業所
ウキウキ班の皆さん
※紹介が9ページに
あります。

CONTENTS

- ▶ 年頭挨拶 P2～3
- ▶ SDGs委員会がスタート P8

2022年1月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

2022年 年頭挨拶



ゆたか福祉会
理事長
鈴木 清覚

新しい年に平穏を願い

着実な事業の発展を

ゆたか福祉会の広報誌読者のみなさん、新年おめでとうございます。みなさまは新しい年をどのように迎えられましたでしょうか。

ゆたか福祉会においては、昨年コロナ対策に格闘する1年となりました。こうしたなか、設楽町・福祉村からの希望者のみなさんの名古屋地域への移行の具体化や、そのための生活の場であるグループホーム（地域生活支援拠点）の建設、福祉村の新しい将来構想の検討などに取り組みました。また、人権や福祉・環境の保全、平和の礎のもとに持続可能な社会をめざすSDGsの取り組みも、ようやく委員会を設置し推進する体制をつくることができました。関係者のみなさんのご協力や奮闘に、こ

ころからの感謝を申し上げます。

さて新しい年は、ゆたか福祉会50周年を節目に策定した「第6期総合計画」の3年目となります。

引き続きコロナ感染対策に万全を期し、安心した暮らしと事業運営をめざしつつ、新しくスタートする地域生活支援拠点の事業を軌道に乗せていくことが大きな課題となります。また、この間努力してまいりましたベトナムからの人材確保も、関係3法人の協力によって具体的な取り組みがすすみ、今年度はフエ科学大学の卒業生を実際に名古屋の地に迎えていくこととなります。コロナ禍で延期してまいりました50周年の記念事業も、工夫して開催していければと考えています。

いずれにしても、長く困難の中

で築き上げてきたこれまでのゆたかの歴史をふまえ、掲げてきた理念を関係者の共通の土台として、こうした課題に取り組んでいかなければならないと考えているところです。激動の続く中で迎えたこの年を、障害者や高齢者のみなさんの願いの実現、人権と平和が尊ばれる年にしていきたいと決意しています。

どうか本年も、関係者の皆さんの引き続きご協力をお願いいたします。

昨年、自治会連合会でやったことは法人との懇談会と、作業所自慢交流と各施設の交流などをやりました。各作業所の仲間の

新年あけましておめでとうございませう。いつも自治会連合会に参加してくれてありがとうございます。昨年も引き続き新型コロナウイルスの影響で、自治会連合会の会議と役員会はリモートでやりました。リモート会議をやって、各施設や作業所の仲間の会自治会と交流し、つながることが出来てよかったです。



自治会連合会
会長
石橋 満久

会自治会の協力のおかげで、自治会連合会会議と役員会ができることに感謝しています。今年も引き続き、自治会連合会の会議はリモートでやって、つながることを大切にして、仲間たちの要望と願いを、国と県と法人に伝えたいと思います。早くコロナが終わって自治会連合会の会議をみなさんと対面で実現出来るように頑張ります。今年健康に気をつけて仕事をやりながら、自治会連合会活動、あいざれん利用者部会活動、きょうざれん利用者部会活動をして頑張ります。ゆたか福祉会の明るい未来とよい福祉を目指して頑張ります。自治会連合会は仲間が主人公の会を大切にして、仲間たちのために頑張ります。今年も自治会連合会をよろしく願います。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、保護者連合会の活動は一昨年度に引き続き、定例会や研修会等の取り組みを自粛せざるを得ませんでした。取り組むことができたのは日本ガイシフォーラム第一研修室を会場にした七月と十一月の定例会です。十一月九日には愛知県で緊急事態宣言が解除される中、法人より後藤理事の出席を得まして、ゆたか福祉会の第六期総合計画における今年度事業計画の重点課題について説明を受けました。又、国や地方行政との関わりや、内部事情等々のお



保護者連合会
会長
藤田 順子

話をうかがいました。後に私共の代表者達との情報交換を通して嬉しかった事は、親達は職員の方々の御苦労に対し感謝している事です。「ゆたか」の事業運営の基本は、利用者、家族、職員がそれぞれの立場で現状や、課題、要望を出し合い、問題解決に努める事です。福祉会設立五十周年の節目を終え、「この子を残して死ねない」と言い、頑張った保護者の皆さんや、御支援、御尽力頂いた皆様は心よりの御礼を申し上げます。でも、立ち止まっている場合では有りません。仲間達の高齢化に伴う疾病や、機能の低下に伴う支援体制、人の強化が必要です。私を筆頭に、親の高齢化と、職員の三分の一が六十才以上になっている現実を受け止め、歩み続けねばなりません。私達には大勢の仲間がいる、支えあう仲間と共に、信じて、団結して、無理をせずに、新年を迎えましょう。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

コロナの中で工夫して

いちご狩り、学生さんとの交流、みんな楽しかったよ！

あかつき共同作業所では、コロナ禍でも楽しめる事の工夫として、ZOOMを使った取り組みをすすめました。

名古屋芸術大学音楽療法科の学生さんたちと前期・後期の授業の一環で音楽を通して交流をしたり、毎年イベントの時にボランティアに来ていただいていた中部大学NPOセンターの学生さんたちともつながりを切らないように、2年ぶりに学生企画のゲームをしたり、あいされん利用者部会（やるまい会）へ参加し、他法人の仲間たちとも交流してきました。

また4月には、「コロナに負けずに楽しいことをしたい！」と常にアテンナを張っていた職員が、たまたまテレビで出張いちご狩りをしている様子を見て「これだ!!」といちご狩りを企画。感染症対策として、マスクができる仲間にはトラックの中でいちごを摘み、マスクが難しい仲間は、いちごの鉢を外のテーブルに置いて外で採りました。その場で食べることは感染対策でできませんでしたが、摘んでいる仲間の笑顔を見ると、「これも貴重な経験だな」とすごく感じました。

「みんなで一緒にできる日が早く来ますように…」と願いつつ、貴重な経験をまた次に活かすことが出来ればと思っています。

あかつき共同作業所 佐野浩之



『オンライン区民まつり』に参加しました！

南区内の法人内事業所も加盟する「南区障害者関係団体連絡会（南障会）」と、地域の諸団体が手をつなぎ毎年行われてきた「障がい者と区民のつどい」さわやかウォーク」が昨年に引き続き中止となりました。2年続けて地域へのアピールの機会を失う事となりましたが、南区社会福祉協議会さんからお声掛けもあり、11月14日に開催の『南区区民まつり@ONLINE2022』の企画の一つ「パフォーマンス動画」に南障会として応募する事となりました。ゆたか福祉会からも、「ゆたか」「みのり」「ふれあい」「フレンズ」「事業所みなみ」から申し出があり、南区のマスケットキャラクターMioo（ミオー）の歌に合わせての踊りや、アピールを披露する事となりました。

みのりでも昼休みなどに動画鑑賞を楽しむ仲間たちを中心に「出たー!!」と声が上ががり、数日前から撮影に向けての練習を行いました。撮影では仲間からのアピールが職員のイメージとは違うものになってしまいましたが、にぎやかな様子がまとめられた動画となりました。

区民まつり翌日には、「家族と観たよー」と笑顔で報告する仲間もいて、様々な我慢の日々の中の忘れられない取り組みとなりました。

この動画は『南区のなかまたち』で検索すると視聴することができます。是非、それぞれの事業所の雰囲気や作業の様子等を観ていただけたらと思います。

みのり共同作業所 佐藤 正章



社協パフォーマンス動画URL
QRコード(障害者関係団体連絡会)

感謝の気持ちを伝える 冬のつゆはしショップ

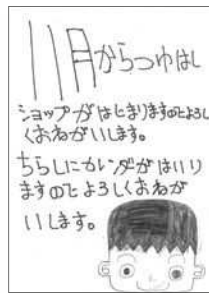
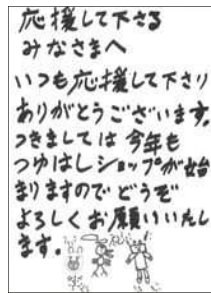
今回は夏同様「コロナ禍で仲間たちはどのように取り組むのか」ということを考え、まず営業や配達は期間を決めて仲間と一緒に行きました。営業では仲間がおすすめの商品を一生懸命伝えている姿があり、校長会の挨拶では「協力をしていただきたい」という仲間の気持ちを込めたお願い文を入れた小中学校に配布するチラシをお渡しました。

次にポーンズ実行委員会を立上げ、スローガン（目標売上金額220万円、カレンダー500本）を決めて毎朝読み上げ、班によっては班独自の売り上げ目標金額やスローガンを考えてつゆはしショップへの意欲につながりました。「お客様に感謝の気持ちを伝えよう」という仲間の思いをもとに、お買い上げいただいたお客様や環境事業所の皆様へ配布するイラスト入りのお礼状も全体で作成しました。

仲間一人ひとりが心のこもった言葉を書いていたことが印象的です。名古屋国際婦人クラブ定例会での即売会に職員だけで何うと「仲間は元氣？」「〇〇さんはどうしている？」「会いたかったわ〜」「残念だわ」とのお声がありました。改めて仲間がお客様に直面することの大切さを実感します。

売り上げは目標の220万円を達成することができ、仲間の大喜ぶする顔が目に見えます。次回も仲間と共に頑張りたいと思います。

つゆはし作業所 宮川 清治



「地域生活支援拠点事業所」開設に向けて 事業所名「まーぶる」に決定

昨年から始まった「地域生活支援拠点事業所」の建設も順調に進み、年明けからは本格的に開設に向けた準備に入ります。

この間募集をしていた新たな事業所の名称も、多くの仲間や職員、ご家族から提案を頂き（69名112件）、「まーぶる」という名称に決まりました。正式には事業所名が「地域生活支援拠点事業所まーぶる」、グループホームの名称が「まーぶるホーム」になります。「まーぶる」の英語の意味は「大理石」「輝く模様」「様々な色のおはじき」「ビー玉」です。名前のとおり仲間達が個性豊かに輝く事業所になりたいと思っています。

地域生活支援拠点事業所は、名古屋市が推進している事業でもあり、グループホームに併設する形で緊急短期入所やグループホームの体験利用を行う事業所です。各区の障害者基幹相談支援センターが利用登録・調整などのコーディネートを行います。

昨年12月6日には利用希望者向けに、南区障害者基幹相談支援センターの協力を得て、入居・利用説明会を開催しました。当日は障害のある本人と家族、職員など28名の方々に参加して頂き、改めて期待の大きさを痛感しました。

今後は4月のオープンに向けて建物や設備をはじめ、人的体制や運営面での準備が本格化する予定です。



高齢期の 障害者家族の生活問題と社会的支援

第12回

未来を花束にして

今号で、本連載もいよいよ最終回です。連載は、『みんなのねがい』に次いで2年目となり、毎月の締め切りに追われる生活の大変さというのも実感する日々でした（これを職業にされている方は本当にすごい）。こちらの会報誌ではその時々を考えていること、私自身が関わっていることなど自由に書かせてもらえて、自分が思っていることを共有してくれる人がいるというこのありがたさを実感しました（いろいろ感想を寄せていただいた皆さん、本当にありがとうございました）。

張られていないセーフティネット

さて、この原稿を書いているのは2021年12月の初め。新型コロナウイルスの新たな変異種の対応をめぐって政府の対応が混乱するニュースが流れ、今朝は比較的大きな地震が2箇所で起こりました。年末には久しぶりに病気がちの両親に会いに実家に行きたいと考えているのです

が、（これが皆さんのお手元に届いた頃には分かっていますが）実現したのでしょか???

前号でも書きましたが、今、私たちの生活を取り巻くセーフティネットが張られているのかどうかさえも見えない状況です。コロナ禍（この言葉を使うのは躊躇します。禍にしたのは誰なのか???)というところが問われないとなりません。において、多くの人々の生活が危機に直面しています。障害のある人たちにとっても活動や外出が制限されたり、直接的な関わりを避けるというストレスフルな環境におかれた中で、ご本人はもちろんのこと、支えるご家族や職員もギリギリの状態だったと思います。本来であればそういった状況を支えるべきはずの所得保障がなされない、必要な医療が受けられないなどの状況に深い絶望感を感じた方も多いと思います。その結果として、前号でも書かせていただいたような悲しい事件が起こり、（もちろん子どもを命を奪うということはあってはならないことですが…）その裁判においても、加

害者である親の責任能力ばかりが争点となり、公的責任は話題にも上らない状況に問題の根深さを実感しました。私たちは、何かあったら、誰か？国が？助けてくれるとどこかで淡い期待をいただいている気もしますが、実はセーフティネットは見えないのではなく、張られていないのかなと思うこともしばしばあります。

暮らしの哲学のない社会へ抗う

このような状況は厳しいですが、私自身は決して悲観ばかりしているわけではありません。

日本には、「猫の額ほどの家」「つなぎの寢床」など家の狭さを表現する言葉がいくつがあります。貧乏な学生時代に、よく泊まっていた東京の山谷の元ドヤ（その当時は、外国人のバックパッカーに人気のおしゃれな雰囲気でした）は、一部屋当たり3畳ほどのスペースしかなく、布団を敷いたらいっぱいという感じでした。貧乏学生





佛敎大学
田中 智子

の旅の宿としては十分だと思っのですが、ここで暮らすとなると厳しいだろうなと思いました。朝、宿を出ると通り一帯にお酒を片手に、新聞を読んだり、話したり、寝転んだりという光景が広がっていて驚いたのを覚えています。

フィンランドに行ったとき、障害者のグループホームを案内されると、居間とは別にベッドルーム、シャワールーム（自分のお金で浴槽を買って、作業所から帰ってくると入浴を楽しんでおられるダウン症の女性もおられました）、キッチンが備わっていました。職員の説明によると、「（本人が使えるかどうかに関わらず）家にはリビングとは別のベッドルーム、キッチンとシャワーがあるのは当たり前。そうでないと友人や家族を招くことはできないでしょう」と言われました。もちろん障害のある人だけではなく、すべての国民に対して「住宅基本法」によって保障されており、それらの機能がない住居や狭すぎる部屋は法律により作ってはならないことが定められているのです。私は、それを聞いたときに、「人間らしい暮らしとは何か?」そして「そのために必要な住居とはどうあるべきか?」という暮らしの哲学があると思いました。

翻って日本。グループホームや施設は

「家」ではなく「部屋」であることが多いと思います。自由な時間にお風呂に入る、好きな食べ物を作るといったことも難しく、友人や家族が泊まってくるといったことも気軽にできませんよね。そして、今後の制度改定で、障害等の状況によっては、グループホームが利用できなくなる人も出てくる心配が…

今、ゆたか福祉会の職員も含めて、暮らしの場を考える研究会を定期的に開催しています。全国には、そういった社会に抗おうとプライドと信念をもって、暮らしの場を支えている専門職がいることが、私にとっても支えです。障害福祉現場から、社会に対して「暮らしの哲学」を提起していきたいと思えます。

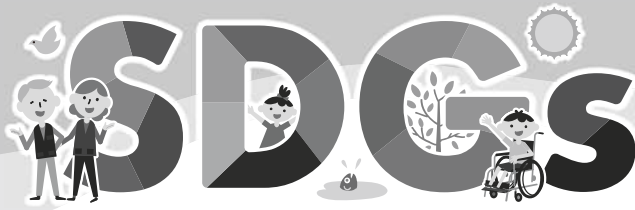
私のお薦め映画から

これは私のお気に入りの映画のタイトルです。100年前のイギリスで、女性の選挙権獲得に向けて闘った女性たちがモデルです。当時、選挙権がない市民として認められていない女性たちには、子どもも親権も認められていませんでした。運動の最前線に加わることで離婚せざるを得な

かった女性たちは、子どもたちと引き離され一緒に暮らすことはできませんでした。そのような中で、子どもたちが生きる社会が少しでも善きものなることを願うことが、親としてできる精いっぱいのことだったのだと思います。

拙著『障害者の老いる権利』の表紙にも「希望」が花言葉のトルコキキョウを持った高齢女性が描かれています。障害者家族の高齢期の問題に向けて動くことが、すべての世代の女性たち（もちろん男性やあらゆる性の人にとって）の未来に希望を与えられることだと思います。この間、拙著をテーマに学齢期の親御さんや父親との学習会の企画などにお声かけをいただくようになりました。今、みんなで高齢期の問題を取り組むことが、次の世代を生きる子どもたちへのギフトだと信じて、その連帯の輪につながりたいと思います。

2022年。今年ほどのような年になるでしょうか。皆さんと安心してお会いできる日が来ることを心より楽しみにしております。素敵な一年になりますように。



SDGs委員会がスタート!!

第1回委員会を
開催しました

世界各地で「気候危機」と呼ぶべき非常事態が起こっています。異常な豪雨、台風、猛暑、森林火災、干ばつ、海面上昇などの大問題で、「人類が住めなくなるかもしれない地球の危機」といえます。2015年9月には国際連合サミットで「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた17の目標と169のターゲットからなる「SDGs（持続可能な開発目標）」が採択されました。

このような情勢のもと、ゆたか福祉会第6期総合計画では「中期ビジョンとして『誰一人取り残さない』社会の実現をめざして、我々の世界を変革する。SDGsの課題を事業計画に位置付け、私たちにできることからその目標達成へ向けた取り組みを推進する」としました。この計画の推進にあたりメンバーは、「この取り組みを

ぜひやってみたい!」という職員で構成できたらと考え、2021年7月に法人全体に呼びかけを行い、9月にメンバーが決定しました。

第1回SDGs委員会は、10月13日午後オンラインで開催されました。メンバーのみなさんからは、「初めての障害者分野の仕事の中で、貧困問題にふれ、格差があったり、生きづらさを抱えている方が多いと感じている。ゆたかのスケールメリットをいかして何かできるのでは」「コロナ禍や福祉分野にAIが入ってきて雇用がどうなるのか、女性として働く環境がどうなるのか、どう価値観が変わっていくのかに問題意識を持っている」「リサイクル事業の再評価や、大気を汚染しない学習などをやれたらいい」「マルシェとかイベントをやって、地域の方とのふれあいや絆づくりから、障害者への理解をひろげたい」

り、住みやすい地域づくりをめざしたい」「電子化が急務。とにかく紙が多すぎる」「車通勤が多い。公共交通機関や自転車通勤を奨励したい」「ホームの食べ残しを減らす取り組みを行い、そこから環境のことを仲間と一緒に考えたい」等、様々な思いが語られました。

今後の進め方としては、「職員やなかま全体に知ってもらうことから始める」「ゆたか」としてSDGsの目標の何を大切にするのか鮮明にする」「学びながら、できることから始める」の3点を確認しました。

また全職員研修を活用した学習会やアンケートを実施することも話されました。2030年までの目標からみるとゆっくりですが、職員・仲間・関係者と一緒に、意欲あふれる取り組みとなるように進めたいと考えています。

SDGs委員会責任者 熊谷 由美子

委員会メンバー

- 荒川 元仁 (福祉村事業本部長)
- 荒木 雄太 (ワークセンターフレンズ星崎)
- 小林 みのり (ゆたか生活支援事業所みなみ)
- 富永 珠代 (ゆたか生活支援事業所みどり)
- 丸山 京子 (相談支援事業本部長)
- 美田 亮介 (ゆたか通勤寮)
- 熊谷 由美子 (地域支援事業本部長)





11月

- 8日(月) 事業運営推進会議
- 9日(火) 保護者連合会定例会
- 12日(金) 新所長研修
- 16日(火) 2021正規採用職員
[中間研修]/
強度行動障害者支援者
養成講座「基礎研修」
～17日(Web)
- 17日(水) 副所長会議
- 22日(月) 広報・ホームページ
編集委員会/
就労支援事業推進委員会
- 24日(水) 所長会議
- 27日(土) 理事会
- 29日(月) 2021「援助担当者会議」/
研修部会議

早川 剛史
飯田 立輝
松島 時子
西尾 明
篠田 佑右子
近藤 よし恵
岩田 恒子
あすなる園
シタラ 建材(有)
(福)コスモス福祉会
株名南事務所
中日本ジュエキ(株)
設業建設(株)
株イリエ

岩崎 正夫
伊藤 勝久
野村 文男
加藤 禎男
大野 洋志
森 素子
山口 信二
森 重徳
小野 敏弘
水田 好貴
稲垣 孝雄
亀田 やよい
柳 進
江上 直子

高木 真美
田中 正二
青木 一博
今井 百合子
瀬口 昭代
奥谷 さと子
清水 理師
中村 邦夫
安田 訓明
山本 富喜代
星屋 政司
半場 とし子

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覽)

岩田 恒子

一般寄附(12月)

順不同敬称略

(12月1日～12月10日手続き分)

順不同敬称略

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

表紙の作者紹介

「輝け 2022!」 あかつき共同作業所 ウキウキ班

誰もが夢と希望を胸に、晴れやかな気持ちで新年を迎えられるよう、願いを込めた年賀状です。ウキウキ班の仲間たちは、玄関に飾るカレンダー作成と広報用の年賀状作成を年間スケジュールに入れています。今回も「昨年に続いて広報誌の表紙を飾ろう」と意気込んで作成しました。

「来年の干支は?」「新しい年のイメージは?」と話し合いからスタート。テーマが「初日の出」に決まると、背景・富士山・初日のグループに分かれて、色紙をちぎる仲間、貼る仲間と協力して作成しました。

背景を貼る仲間の側で、関係ない色紙を広げて遊ぶ仲間がいて予定外の色を貼ってしまいました。想定外な出来事も良い仕上がりのスパイスになり、みんなで「これもありだね」と笑い、完成を喜びました。



広報・468号

2022年1月号(2022年1月10日発行)

定価1部100円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会員費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会員費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

【お詫びと訂正】 広報12月号の掲載内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

9 P10 住田さんのお名前 誤：恵理さん 正：恵利さん



みのり
共同作業所

立和名 由里さん

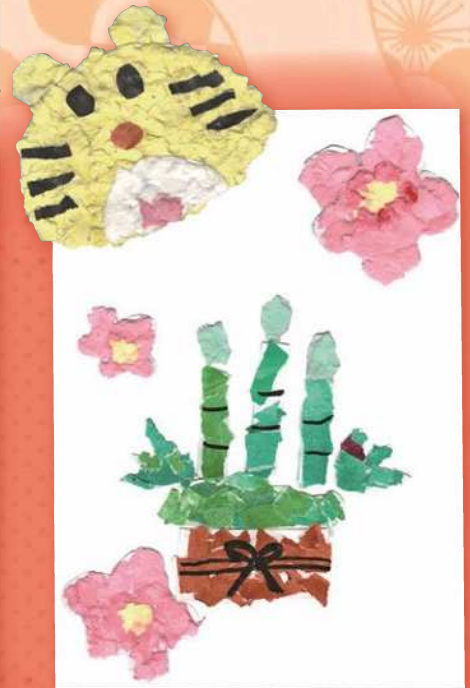


内山 寛昭さん

2022年



私たちのメッセージを
お届けします



デイ現場 共同作品



ゆたか作業所



小島 広志さん



軽作業現場 共同作品



田口 圭さん



加藤 泰一さん

第2 ゆたか
希望の家



岡本 慎さん



太田 深雪さん



倉橋 義一さん



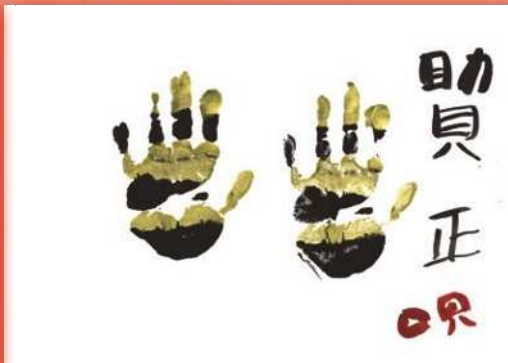
藤野 豊さん



松井 香澄さん



深谷 聡さん



権田 晴美さん



ワークセンター
フレンズ星崎



ふれあい
共同作業所



鈴木 節子さん



竹島 裕子さん



岸上 陽樹さん



釜崎 凌さん



みらいろ



デイサービス宝南



武野 喜美子さん



森賀 優子さん



水谷 都美子さん



嘉藤 忠さん



「私たちのお正月」



つゆはし作業所

他にも沢山の作品をいただきましたが誌面の都合上、掲載できませんでした。ありがとうございました。